



アエファ AEFA通信

認定NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

<http://blog.canpan.info/aefa/>

短歌・俳句がつむぐ想い ～ 福島県飯館中学校と宮崎県細田中学校をつなぐ心のやりとり ～

福島県相馬郡で“までい（丁寧に、心をこめてという意味）”な暮らしをしていた飯館村。昨年“ふるさと納税制度”で「ラオスに学校を贈ろうプロジェクトを計画し、ラオスのドンニャイ村への中学校建設をAEFAを通じて支援して頂いていました。しかし、この度の福島における原子力発電所の事故により計画的避難地域に指定され、村民は住み慣れた故郷を追われ避難生活を余儀なくされています。飯館中学校の生徒達も、西隣にある川俣町の川俣高校の校舎を借りて授業を行っている状況です。

一方、宮崎県日南市にある細田中学校では昨年からラオスのノンヤオ中学校と交流を続けています。この度の飯館村の話聞き“ラオスと交流をする同じ仲間として何かできないだろうか”と思案。細田中学校全校生徒60名からの励ましの短歌を送ったことから、両校の間に心をつなぐやりとりがはじまりました。

右で紹介した短歌は2011年7月6日、七夕に寄せて願いをこめるように細田中から飯館中に贈られました。

「ここにある短歌や俳句は、私たち細田中学校の全校生徒が、毎週月曜日の朝に作った作品です。平凡な日常を歌った作品も多くあります。いま、わたしたちは、その平凡な生活がいかに大切かを学びました。飯館村の子どもたちに、一日でも早く平穏な暮らしが訪れますことを心よりお祈り申し上げます。若葉たちに、子どもたちに、少しでもあたたかな日の光がさしてくれればと願っています。」

細田中学校の子どもたちの想いは、飯館村までい大使をつとめているAEFA理事長 谷川と、同じくまでい大使でラジオ福島アナウンサーの菅原美智子さんによって飯館中学校へ届けられました。



（左から遠藤和雄飯館中校長、菅野奈々美生徒会長、菅原さん、谷川）

「遠い宮崎県にも、私たちが応援してくれている人がいることが嬉しく大きな励みになります」と菅野生徒会長が御礼の言葉を述べてくださいました。

若葉たち 空見上げ ぐらぐらと 若葉たち 若葉たち 頑張ろう 誰ひとり 若葉たち 若葉たち 僕たちの 銀天街 若葉たち 若葉たち たくさんの 東北に 理科室の 顕微鏡 野の道に 母まねて ほととぎす	地震に負けるな 若葉の君に まだまだ 余震 未来に向かつて 大空いっぱい 震災なんか 予想もしない 空を見上げて 心と気持ち 募金活動 あきらめないで 未来を信じて 人が参加し できる限りの 風はゆるやか ミジンコ見た日 一本花が 胡瓜ちぎりて 初音待ちわび	絶対に 今届け 余震 突き進め 飛んでゆけ 吹き飛ばせ 大津波 だいなものが あたたかな 頑張ろう 入ってる 声出して 生きていこう 輝いて 成り立った プリントを 拾ってくれた 柵状組織が 一つ大きく 籠ひとつ 夜の空	宮崎県から 応援します みんなで願う めげずにまっすぐ あきらめないで 東北のみんな 虹まで届け 生きていこう 流されていく 光り輝く 今を生きる 募金の箱へ 届くといいな 「復興」の文字 前へ進もう 募金活動 募金のこもった 先生の手 よく見えた 白百合の花
--	--	--	---

蛭原エミリ 藤崎希彩 松浦光明 日高颯太 川口皓平 日高恭平 相賀彬季 山下悠 丸目善頌 松井光樹 吉田幹也 年前樹里 相賀優希 坂元美香 池田有希 野末佑真 金丸和樹 秋山菜里 福嶋京香 長渡円香
--

若葉を、飯館村の友だちに重ねて詠んでくれました

若葉の歌
— 細田中学校から飯館村の子どもたちへ —

俳句から短歌へ

～ 励ましの言葉を受けて、今の私たちの思い ～

細田中学校から贈られた俳句と短歌による応援メッセージ。飯館中学校では間借りしている川俣高校の職員室の前に、掲示していただきました。そして、この贈り物に感謝して、国語科中塚先生のご指導の下、2年生が中心となって、早速短歌30首、俳句18句の返歌を作ってくださいました。



職員室の扉に掲示された短歌・俳句



7/19 飯館中学生徒代表から返歌を受け取りました



7/22 飯館中学校の子どもたちからの返歌を携えて、AEFAの大石顧問が細田中を訪問。生徒全員の前で贈呈式を行いました。

本当に いろんな人の 手助けを 受けて私は 明るくなれる
 励ましの 言葉を胸に 復興へ 未来を信じて 前進あるのみ
 震災の おかげで心 一つになる 希望をもって 生きていこう
 放射能 先が見えない 怖さかな 夢や希望を 次のおかげで 元気になれた
 放射能 先が見えない 怖さかな 夢や希望を 次のおかげで 元気になれた
 ありがとう 応援糧に 力出し 乗り越えてゆく 悲しみの時
 絶対に 負けてたまるか 震災に 忘れはしない あの時のこと
 福島は 強いぞみんな 原発を 乗り越えて行く 未来のために
 絶対に 飯館村は あきらめない 離れていても 心は一つ
 悲しい時 誰かが必ず 手を伸ばす そのたび僕は 希望が見える
 絶対に 帰ってみせる 飯館へ 原発なんかに 負けないぞ
 目に見えぬ 放射能と 生きていく 飯館村で 笑える日まで
 ありがとう 広い心の みなさんは 夢や希望の 架け橋ですよ
 がんばろう 試験の時は 生き抜こう
 ありがとう 全国からの 思いやり
 我が夢を かなえるために 今努力
 絶やさぬ 笑顔をつくる 思いやり
 飯館の 家が恋しい 帰りたい
 ありがとう 夢や希望の 道標

- 高橋麻美
- 星美穂
- 手渡裕子
- 佐藤美穂
- 菅野大輝
- 佐々木華純
- 細杉利征
- 大和田遥
- 庄司紫歩
- 佐藤奨悟
- 鎌田菜々
- 西川茜衣梨
- 松林陽太
- 細杉利征
- 橋本彩
- 高橋悠
- 千葉裕太
- 高橋凧沙
- 佐々木華純

俳句から短歌へ 励ましの言葉を受けて、今の私たちの思い | 飯館中学校 |

飯館中からの返歌を受け取った、細田中の長渡円香さんは「私たちの方が、勇気づけられました。飯館村の皆さんは大変でしょうが、ぜひがんばってください。」とお礼の言葉を述べました。また、細田中学校の生徒からは、飯館中学校に届けてほしいとCDを預かりました。これは、歌手の今井美樹&コブクロが、口蹄疫に苦しむ宮崎県のために作った「太陽のメロディー」という曲です。「この音楽によって、私たちは、とても元気づけられました。歌詞がとても素晴らしいです。飯館中学の校内放送でこの音楽を流してもらって、みなさんに聞いてほしいです。元気がでると思います」

◆太陽のメロディー(歌詞の一部抜粋)◆

「一人に一つ配られた 希望という名の傘は 小さくて 折れやすくても この空に集めれば

どんな 雨にも負けないと この街いっばいに降り注ぐ 太陽のメロディー……

風は 全て知っているから どんな言葉よりも暖かく 包んでくれるから みんな この街が好きだから

大空いっばいに溢れてる 太陽のメロディー 明日へのメロディー 歌おう 笑おう 太陽のメロディー」

口蹄疫に続いて鶏インフルエンザ、新燃岳の噴火・・・と次々と災害に見舞われた宮崎県。だからこそ、東日本大震災と原発事故に伴う放射能問題で苦しむ飯館村の友だちの気持ちもよくわかるのかもかもしれません。

飯館と 細田は 遠く離れても ともに進もう 笑える日まで
 ～ 宮崎県細田中学校から福島県飯館中学校へ ～

飯館中学校から贈られた短歌・俳句をうけて、細田中学校のみなさんはどのように感じたのでしょうか。細田中学校で短歌・俳句の指導をしてくださっている熊瀬川先生からこんな言葉が届きました。

物や事に感じて、平静を乱されたときに、その心の揺れを整えようとする手立てとして、昔から人々は「うた」を歌ってきた。「うた」の語源には「訴える」という意味があるという。沈黙してはられない、やむにやまれぬ思いが「うた」となるのだ。

「目に見えぬ 放射能と 生きていく 飯館村で 笑える日まで」

飯館中学校西川さんの歌に対して、細田中学校の生徒達が返歌とメッセージを寄せてくれました。

◆石元さん

お忙しい中細田中学校に短歌・俳句を贈ってもらいありがとうございます。ニュースなどで原発のことをよく見ます。私はこの作品を読んで、飯館村の人たちは飯館村にいつか帰れる日を待ち望んでいて、あきらめていないでいることが強く感じられました。これからも、もとの福島県にもどるまで私も応援し続けます。

◆山本さん

僕は、この短歌や俳句をよんで、飯館中学校の生徒さんたちの放射能や震災、津波なんかに負けないという気持ちがとても伝わってきました。僕も負けれないなあと思いました。逆に、僕たちのほうが勇気づけられたような感じがします。

◆福嶋さん

私は贈られた俳句や短歌をよんで、あの恐ろしい体験をした人にか分らない想いがあることを感じました。私は「逃げたいだろうな」「苦しいだろうな」と思っていました。しかし「負けない」や「乗り越えていくんだ」という強い気持ちがあるんだなど、この短歌や俳句を詠んで改めて思いました。

◆吉村さん

この短歌を作った人たちから、負けないぞという気持ちが伝わってきます。僕たちにできることは少ないですが、遠い宮崎県からも応援していきたいと思えます。

細田中学校からの返歌と太陽のメロディーのCDは2学期の始業式に飯館中学校に手渡されました。

*** 飯館中学校代表者によるお礼の挨拶 ***

細田中の皆さん、二度にわたって心温まる短歌を送っていただき、ありがとうございました。震災や原発事故の影響で私たちは、自然豊かなふるさとを追われ、不安と混乱の中で避難生活を送ることになってしまいました。見えない放射能に対する恐怖や、先の見えない将来への不安でいっぱいでしたが、遠く離れた地にも私たちを思っていてくれる方々がいるということを知り、大きな励みとなりました。

これからは皆さんからいただいた温かい言葉を心の支えとして、飯館村に戻れる日まで前向きな気持ちをもって、精一杯がんばります。細田中学校の皆さん、本当にありがとうございました。



平成23年8月25日
 飯館村立飯館中学校
 2年 佐々木華純

細田中学校から飯館中学校への返歌

放射能 目に見えなくても 負けないで きつと見れるよ みんなの笑顔
 絶対に あきらめないで いつの日か みんなすてきな 福島笑顔
 いつの日か 飯館村で 笑えるよ 一人一人が 手を取り合つて
 だいじょうぶ みんなは強い 心持つ きつと飯館 笑顔になれる
 目に見えぬ 放射能と 生きている きみたちにとどく 見えない思い
 飯館の 未来のために 細田から 思いを贈る 心はひとつ
 負けないで みんなの力 合わせれば きつと笑える 飯館村で
 遠くから 応援します みなさんが 飯館村で 笑える日まで
 福島に 笑顔がもどる その日まで 歌つて応援 太陽のメロディー(*)
 「生きていく」その志に 感動し 高まる思い 深まる絆
 飯館と 細田は 遠く離れても ともに進もう 笑える日まで

富山 夢瑛始
 平田 沙季
 長渡 円香
 秋山 菜里
 若松 英治
 相賀 優希
 西岡 由衣
 藤崎 希彩
 川口 皓平
 山下 悠
 松井 光樹

* 太陽のメロディー歌詞は2頁参照

*** 編集後記 ***

ラオスを通じてつながる日本のふたつの中学校。五七五七七という文字に籠められたそれぞれの想い。そして離れていてもお互いを思いやる気持ち。今回できた両校のつながりを大切にしながら、AEFAとしても今後もサポートを続けていきたいと思えます。